

ホーム名：グループホーム第2東神田の里 あかしあユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	立ち上げからまだ1年しか立っていない為 まだまだ職員への理念の共有・方針が繋がっていない為、今年中に施設・ユニット内の目標を決め職員全員が共有・実践できるようにしていく。	法人運営施設共通の理念に基づき、運営方針を策定しているが、職員との共有や実践につなげていくのはこれからという状況。	まずは、運営方針を職員と共有し、いかに実践につなげていかに取り組んでいかれることを願う。その上で、施設側でも地域密着型サービスとして何が大切かを考えておられると思うが、地域や利用者と家族のニーズに答える価値を理念としてつくりあげてはどうか。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には、積極的に参加を行いカラオケ大会鑑賞に行ったり催し物には、2～3日に別けて入居者様と職員が参加し地域の一員として参加し、地域住民との関わりをもつようにしている。	地域の一員として、地域と施設側の双方で行事予定を共有し、行事を通じて交流が行われている。又、地域の介護相談窓口として、地域住民の介護に関する様々な相談にも対応している。	地域の一員として、地域の活性化につながる取り組みに期待したい。介護の専門家として、行政とも連携し、この分野での地域課題の解決に取り組まれてはどうか。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営促進会議にも地域の役員さんに参加して頂き認知症の方の理解を深めています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的に運営推進会議を実施し、施設の利用状況や地域行事への参加、施設に対するの意見を入居者様・家族様・町内会役員・市役所職員・包括支援センター職員から聞かせて頂きサービス向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を開催し、行政、地域、利用者、家族と施設側からの運営状況報告に基づき、意見交換が行なわれている。意見交換の中で、課題を設定し、課題解決を通じて、ケアサービス向上に取り組んでいる。	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるサービスをしていく中で、地域の課題解決や活性化も関係があると思われる。運営推進会議を通じて、介護分野での地域課題解決や活性化につながることも議題として取り上げてはどうか。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者、社会福祉協議会の職員などに現場の実情を積極的に伝え、必要であれば訪問又は来訪して頂き、課題解決に取り組んでいる。	地域の地域包括支援センターと緊密に連携しながら、必要に応じて、寝屋川市とも良好な関係が築けている。	行政は介護保険の保険者であり、地域福祉の推進役のため、施設側で、介護分野での地域の課題解決や活性化に取り組んでいけば、行政との連携もより緊密になるかと思われるので、検討されてはどうか。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	マニュアル等で何が拘束なのかをスタッフ間で共有し拘束のないケアを目指している。身体拘束をやむを得ず行う場合は、家族様に十分説明をした上で同意書を頂き、毎月ユニット内でカンファレンスを行い、どうすれば身体拘束ゼロに出来るかを話し合うようにしている。	組織的には、身体拘束防止委員会を設置し、各職員向けには内部研修を行い、各ユニット単位の会議等で職員同士が意見交換を行う対策を通じて、身体拘束を防止している。個別事情によりセンサーマットを使用しているが、家族の同意を得ている状況。	身体の物理的拘束以外に、スピーチロックやドラッグロックによる薬物の過剰投与や不適切な投与で行動を抑制することも身体拘束につながると考えてはどうか。取り組んで行かれることに期待したい。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の虐待については、職員全体で入浴、排泄時に注意を払い防止に努めており、ユニット内でも職員間で何が虐待になるのかを話し合い確認を行っている。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>施設内研修や施設外研修に参加し、参加していない職員へ伝達や資料で共有することで学び支援を行っている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結時には入居者様や家族様に十分な説明を行い不安や疑問・を訪ね、不明な点については納得されるまで説明を行い、契約後でもわからないといわれた場合には随時訪問や来訪して頂き説明を行っている。</p>		
10	<p>6</p> <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者様やご家族様に運営推進会議に出席して頂き、ご意見・ご要望等をお聞きして運営に反映させている。又、ご意見箱の設置も行い、意見を取り入れる様に努力している。</p>	<p>家族面会時には、ユニットリーダーを中心に職員から責極的に声かけを行い、意見や意向の確認をされている。利用者の意見や意向もユニットリーダー中心に日頃のかかわりの中で、確認されている。</p>	<p>職員、リーダー、管理者といつでもどこでもタイムリーに共有が可能となるタブレットを活用したしくみを検討されてはどうか。又、意見箱への投函を気軽に投函してもらえるようアンケート用紙を用意されてはどうか。</p>
11	<p>7</p> <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月に一度、リーダー会議・ユニット会議を実施して職員の意見を聞き運営に反映させている。</p>	<p>オープンしてから1年程度の影響もあり、各ユニットリーダーと職員間で助けあいながら手探りでケアサービスを実践している。職員の意見も各ユニットリーダーと職員間で、共有できている。</p>	<p>職員、リーダー、管理者といつでもどこでもタイムリーに共有が可能となるタブレットを活用したしくみを検討されてはどうか。また、隣接する同じ法人下のグループホーム職員との意見交換を通じて、運営へのヒントにされてはどうか。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>施設内にて職員がリラックスして休息がとれるように休憩室兼会議室を設け 環境整備に努めています。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>向上心を持って働ける様に施設内研修や施設外研修に出来るだけ参加すると共に参加できなかった職員にもわかるように講習や研修等を行い知識の向上に努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>研修等で知りえた同業者との情報交換や地域の同業者との連絡会等の連絡会にも参加している。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居相談があった場合に入居者ご本人様が来所された場合は、一度居室を見て頂くように実行している。入居者様ご本人に安心して、入居して頂くように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居契約時に困っている事、不安な事、要望などを聞いて確認させて頂くように努めています。また、不安がある場合には、入居契約後であっても、来所して頂き説明を行ったり電話連絡して説明をし信頼関係を深めています。</p>		

17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時の聞き取りは必ず行い、必要と考えられるサービス等は高齢介護室、社会福祉協議会等の公的サービスやその他のサービスなどに確認し対応に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来ない事に注目するのではなく、できる炊事や洗濯物は毎日職員と共に、又は入居者様同士で行い、職員は出来る限り入居者様に寄り添い会話をし、入居者様同士の交流を深める様に務めている。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族様との絆を深めて頂くため家族様の都合に合わせて外出、外泊、外食等を自由に行っている。又家族様へは、施設でのレクリエーション風景や外出レク、洗濯・洗い物・手作り食の手伝いの写真を載せた通信を郵送してご家族様と入居者様の絆をつなぐ様に		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所やお店などを訪れて頂き、関係が途切れない様に努めている。	ご家族や友人、知人が気軽に面会に来てもらえるような雰囲気づくりや近くのコンビニへの買い物を通じて、地域の方と交流を行い、地域との関係性も維持継続できるよう日頃のかかわりの中で様々な工夫をしている。	施設側だけで取り組むことは困難なことが多いので、地域の支援者を中心に地域での応援の輪を広げていき、利用者の地域生活を地域とともに支援して行って頂きたい。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	椅子やテーブルの配置等施設内の配置を常に考え必要な場合は座る一移動を行う。入居者様が楽しく孤立しないように支援し、不穏状態等の場合にも、移動先の入居者様に確認し一時的に席の変更もさせて頂いている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供や相談を受けたら継続して支援して関係性を持続できるようにしていく。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や声掛けの際、入居者様の表情や態度からその日の気持ちや状態を把握して必要な場合は居室にて傾聴している。	利用者がどのように暮らしたいのか、何をしたいのか、誰に会いたいのか等と理解するために日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。各ユニットリーダーや職員は、業務が忙しい中で、時間をつくり、利用者に対話する時間も大事にされている。	把握した意向や思いの記録漏れや精度を高めるため、タブレットによる記録入力をされてはどうか。又、職員間の引継ぎ等コミュニケーションの精度も高めるため、タブレットによる音声入力による文字変換で記録を残されてはどうか。
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時の聞き取りや入居者様が以前利用されていたサービスの情報提供を基に出来る限り今までの生活、暮らしを変えないように知りえた情報を職員全体が共有できるように努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの現状を観察し記録に残し、また必要があれば申し送りノートを活用し職員間で連絡を取れるようにしている。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日々状態の変化がある時には、家族様の意見、以降を尊重しながらその都度会議で意見を出し合い入居者様に対して何が良いのかを探しながら月に1回ではあるが、ユニット会議でカンファレンスを行い、書面にしケアマネージャに報告している。</p>	<p>利用者やご家族との日頃のかかわりの中で、意見や思いを聞き、ケアプランに反映させるようにしている。アセスメントを含め関わる職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。</p>	<p>日々の利用者の記録漏れや精度を高めるため、タブレットによる記録入力をされてはどうか。又、職員間のコミュニケーションの精度も高めるため、タブレットによる音声入力による文字変換で記録を残されてはどうか。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>関わったそれぞれの職員が個人記録に適時記入を行い、情報を共有し活かしている。個人記録や申し送りノートを活用してユニット会議で話し合いを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人様が希望のある場合で、職員の対応が難しい場合には、介護保険外サービスを利用できるよう家族様や成年後見人などに確認して利用して頂ける様にとり組みを行っている</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域ボランティアの方の利用や地域の行事に参加する事でリフレッシュして頂ける様に心掛けている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>それぞれ本人様や家族様に添った、かかりつけ医を中心として、それぞれと連絡を取りながら関係を築き、個人に合った適切な医療を受けられるように支援し、受診が必要な場合や希望があれば職員の日程調整を行い受診に付き添っている</p>	<p>利用者やご家族が希望する医療機関での受診や通院ができるよう配慮されている。家族等と受診時の通院介助の方法、受診結果の伝達方法について話し合いの上、合意されている。</p>	<p>日々の利用者のバイタル記録漏れや精度を高めるため、タブレットによる記録入力をされてはどうか。又、記録入力されたデータは、かかりつけ医ともデータによるタイムリーな連携が可能となり、受診時の効率化にもつながると思われるので、検討されてはどうか。</p>
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護職員は勤務していない為、訪問看護師等に週一度、訪問して頂き日常の関わりの中での気づきや情報を伝え、相談を行っている。緊急時には、24時間連絡できる体制をとっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>病院の入院や退院時には、職員が家族様、成年後見人等と病院に行き、入院手続きや説明を聞き、必要な場合は入院時の付き添いを行い安心して治療が出来るようにしている。また、入院先医療連携室との連絡を密に行い、入院中の状態や退院後の対応について相談や情報交換等を行っている。</p>		

33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、ご家族様は訪問された場合にお話しをさせて頂いている。重度化になった場合は、このまま施設でみてもらえるのかと不安を訴える場合もあり、その都度説明を行い、ご家族様の意見や以降を聞かせて頂いている。	母体の医療法人と連携し、重度化や終末期看取りに対応できるよう体制を整備しながら、取り組んでいる。又、夜間等職員が少ない状態でも近隣の同じ法人グループの施設と連携し、対応できるよう近隣施設との連携体制整備にも取り組んでいる。	重度化や看取り等に対し、様々な状況の中で、その時々の対応力を把握し、現状ではどこまで支援できるのかを見極め、職員全員での話し合いの上、医療機関や家族と連携を図りながらチームとして支援していくことが重要かと思われる。考え方の指針も整理されていかれることを願う。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当・心肺蘇生について、施設内研修・施設外研修に参加し、尚且つ、急変・事故マニュアルを備え、発生時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を通して昼夜の避難誘導や災害時の避難経路を確認し、安全な避難方法を検討すると共に運営推進会議にて地域の方への協力要請や地域の消防訓練にも参加して協力体制をお願いしています。又、消防訓練時には、自治会役員の方にも参加を促したりし、夜間に避難時には応援に来ていただけたとの声も頂いている。	地域特性に応じた具体的な災害想定を行い、対策をたて訓練を行うよう取り組んでいる。地域との協力体制として、敷地内に災害支援型自販機の設置や近隣の法人グループ施設と連携した対策が取れるようにも取り組んでいる。	災害発生時には、地域の協力体制が不可欠となるので、近隣に他の法人の介護施設も多いので、これらの施設とも連携した対策が取れないか検討されてはどうか。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内に接遇委員会を設置し入居者様への態度や職員の接遇態度の研修会を行い、毎月の兵庫を施設内の良く見える所に貼り	職員が利用者に対し誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしていないか、各ユニットリーダーを中心に職員間で日常的に確認しながら、取り組んでいる。	個人情報保護法が改正され、グループホームも個人情報取扱事業者となり、利用者の個人情報においては、不当な差別や偏見などが生じないよう取扱いに配慮を要することも必要となってきた。この状況からも利用者の人格尊重とプライバシー確保はますます重要となるので、継続して重要課題として取り組まれていかれることを願う。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように声掛けを行い自己表現や意見の言いやすい環境や関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活面すべてにおいて一人ひとりのペースを尊重し、暮らしの主体者として入居者様が自由に自分らしく生活できるように援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度訪問理容を取り入れている。起床時の洋服を確認し、外出時には、外出着に着替えを行えるように声掛けを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	当施設では、食事の提供は栄養面や衛生面を考慮して、食事は業者に発注しているが、月1回手作り食を施行し、入居者様の食べたい物を事前に聞き一緒に野菜を切ったり肉を焼いたりしながら会話を増やしたり、お寿司等店へ注文した物を提供したりなるべく入居者との関わりの中で昔よく食べていたものや、施設の食事では出ないもの等があれば出来る範囲で提供している。	月1回、手作り食を提供している。調理は、利用者それぞれができることを担当してもらい、職員と一緒に調理を楽しんでいる。食事中も職員は利用者に声がけをしながら食事を楽しんでもらえるよう雰囲気づくりにも工夫されている。	今後も食事に関する買い物、調理、食事、後片付けなどを、利用者個々の力を活かしながら職員が一緒に行う機会を多くしていられることに期待したい。特に調理は、利用者の思い出として残るよう取り組んでいられることを願う。

41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事チェック、排泄、水分チェックを行い、排泄時間や水分摂取量のチェックを行い、一人ひとりの状態を把握し、1日の摂取量が確保できるように心がけている。</p>			
42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後の口腔ケアは、入居者様の自立度に合わせ、自分で出来る方には促しを行い、口腔ケア介助が必要な方には職員が介助を行い、食前前には口腔体操を取り入れ飲み込みがスムーズに出来るように心がけている。</p>			
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェックにより排泄パターンを知り個人的にトイレ誘導や定期的なトイレ誘導をする事により失敗を少なくするように努めている。</p>	<p>トイレでの排泄を可能にするために、「行きたいときにトイレに行くことができる」よう利用者の排出パターンにそった排出介助が行われている。</p>	<p>夜間等必要に応じておむつを併用されていられる中で、排泄に何らかの支障が生じたとき、適切な提案や情報を提供してもらえる「おむつフitter」という資格を持つ方に相談してみることも検討されてはどうか。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘の予防として、レクリエーションの風船バレーや、散歩など運動する機会を増やし、おやつ時にはヨーグルトや繊維質の食べ物等を提供し、排泄チェックを使用してKOTのカウントを実施、3日間排便が無い場合は、医師の指示により、薬剤を使用して排便を促している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>職員の都合で曜日や時間他を決めずに行う様に支援を行い、一人で入浴を希望される方を把握して見守り、介助を行い入浴して頂いている。</p>	<p>施設の入浴日以外でも希望があれば、入浴していただけるよう対応している。又、様々な事情で入浴ができない場合は、清拭を行う等、利用者の恐怖心、負担感や抵抗感等への配慮をしながら、利用者の意向にそった入浴支援をしている。</p>	<p>今後も継続して、利用者の意向にそった入浴支援をしながら、入浴介助を通じて、利用者の思いを確認する場としても活用されていられることに期待したい。</p>
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>眠れない方には、職員が居 s h 津で一緒に話をさせて頂いたり、フロアに来て頂きテレビ鑑賞をしながら職員と会話し安心して気持ちよく眠れるように支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬管理は、職員が行っており、各職員には服薬の副作用や用法、用量は個人ファイルにお薬の説明書を確認するように伝達している。薬の変更があった場合は変化を医師に報告している</p>		

48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>日々の入居者様の生活歴を踏まえ、趣味嗜好・特技などを把握に努めており、自身の力を発揮できるような関りを心掛けている。散歩を日課にしていた入居者様には、天候・季節により時間帯を考慮しながら行っている。</p>			
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>暑い日や寒い日等の場合は、出かける事が出来ないが、個々の希望により散歩等の気分転換を行う様に声掛けし外出を行う様にしている。またご家族様面会時には、ご家族様とご一緒に外出して頂いている。</p>	<p>施設や地域のイベントに応じた外出支援と近隣への散歩や買い物等の個別の外出支援が行われている。又、家族の面会者も多いため、面会時に家族と気軽に外出を楽しんでもらえるよう配慮をしている。</p>	<p>今後も継続して、利用者が気軽に外出支援を楽しめるよう取り組んでいかれることを願う。特に重度の利用者や歩行が困難なケースでも工夫を凝らし、気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会としての外出を活用していられることにも期待したい。</p>
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理不能な方には、家族様・成年後見人等と話しをし、金銭管理を施設で行っていて金銭出納帳に記入し、家族様の要望があれば残金額をいつでも伝えられるようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>いつでも利用できるように支援している。希望者により、居室に携帯電話を置いて頂いている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の空間には、入居者様と職員とで作成した季節を感じて頂ける作品を飾るなどの工夫を行い、入居者様が快適に過ごせるようにしている。又、職員が温度調節やカーテンでの光の調節を行っている。</p>	<p>共有生活空間は、清潔感あふれる空間となっている。利用者の方には、過去に体験した「思い」を施設の中でも展開できるように家庭に近い環境を感じてもらえるよう様々な工夫をされている。</p>	<p>継続して家庭に近い環境を感じてもらえるよう工夫されていられる中で、フロアの飾りつけや家具の配置等を利用者や家族と一緒に考えて、自分が住んでいる家だという意識を高めてもらえるよう取り組んでいられることに期待したい。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアの作りが、使いづらいため、一人になれる空間づくりが出来ていない。今後、場所を工夫し畳みなどを置くなどゆったり過ごしていただける空間づくりをしていきたい。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族様と相談したり本人様が落ち着け居心地良く過ごせるよう、テレビ・椅子・机等各個人に馴染みのある品を置いて頂き、居心地のよく過ごせるように努めている。希望者により、書道等の作品や家族様の写真を置いて頂いている。</p>	<p>利用者が持ち物が少ない、身寄りがない、家族の協力が得られない等の場合でもその状況にとらわれず、利用者の意向を確認しながらその人らしい居心地がよい居室づくりに取り組んでいる。</p>	<p>継続してその人らしい居心地がよい居室づくりに取り組んでいられる中で、様々な事情により持ち込みの少ない方でも、職員と本人が相談しながら、例えばリサイクル品などを利用して、利用者が落ち着いて過ごせる</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや居室・お風呂場には張り紙を行い場所が明確になるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない